



大戸の自然

相原保善会との携わりを縁に、今回私の好きな「大戸の自然」について紹介することとなりました。ここでは、植物は730種、生きものは500種を超えるなど、訪れるたびに生物多様性の豊かさを実感できる自然の宝庫です。

ここで紹介したどの種も未来へと継承したいかけがえのない生物です。天気の良い日には保善会の守る大地沢に足を運び、大戸の自然との触れ合いを楽しんでいただければ幸いです。
相原保善会 理事 東 克洋



4.11

美しい大戸の春 ～ 大地沢入口周辺 ～

若葉が萌えあがる山並みを背景に、民家のミツバツツジとレンギョウの生け垣が美しい。

春を彩る大戸の桜

大戸入り口から少し入った畑の桜、浅間神社山頂の桜は春の訪れを告げるソメイヨシノ。この2本の桜は春を彩る大戸のシンボル。

また、大戸観音、熊野神社と丑田谷戸のヤブザクラは多摩丘陵周辺と関東西南部に極めて局所的に分布する国の絶滅危惧IB類記載の桜です。これらの桜は、いつまでも大切にしていきたい桜です。



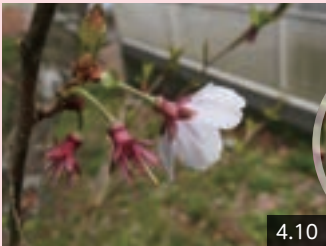
3.20

ソメイヨシノ(浅間神社) (バラ科)
神社山頂の聳える幹周り4.8mの巨木。



4.6

ソメイヨシノ(畑の中) (バラ科)
とても懐かしさを感じさせる一本桜。



4.10

ヤブザクラ(熊野神社) (バラ科)

マメザクラとエドヒガンの自然交配種です。



< 特徴 >

平咲き

膨らむ

萼片は五角形鋸歯あり



4.10

ヤブザクラ(大戸観音) (バラ科)

鐘樓の脇で清楚な花を咲かせています。



4.22

ウワミズザクラ(草戸山山頂) (バラ科)

ブラシのような花を手にとって見られます。

スミレの宝庫

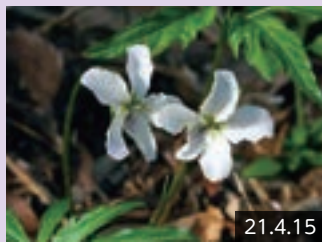
大戸に自生するスミレは19種類。市内のスミレのほとんどが見られるほど、春の大戸はスミレの宝庫です。源流へ続く山道にはタチツボスミレやナガバノスミレサイシンなどが群生しとてもきれいです。都の絶滅危惧II類に指定されているヒゴスミレは3年前に1株発見しました。草戸山山頂のエイザンスミレはこの頃見かけなくなりました。また会いたいものです。



21.3.26

ヒゴスミレ (スミレ科)

葉が細かく切れ込むのが特徴です。



21.4.15

エイザンスミレ (スミレ科)

葉は大きく3つに切れ込みます。



4.14

タチツボスミレ (スミレ科)

陽だまりに群生して咲く姿は見事です。

貴重な蝶 3種

市内の蝶は現在74種。その多くがここに生息しています。ここに生息する特に貴重な蝶、3種類を紹介します。

◇旅する蝶 アサギマダラ

この蝶は春から夏にかけて南から北へ移動し、秋になると南下する2000キロを「旅する蝶」で知られています。

◇日本の国蝶 オオムラサキ

◇絶滅危惧種 ツマグロキチョウ

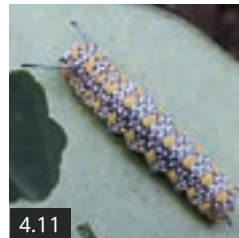
蝶も食草も都の絶滅危惧の選定種です。



10.14

アサギマダラ (タテハチョウ科)

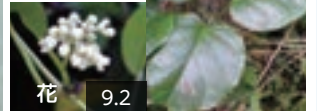
10月から11月にジャブジャブ池から登山入り口付近でアズマヤマアザミで吸蜜するのをよく見かけます。はるか北方より南下して大戸に辿り着いてきたのでしょうか。



4.11



1令幼虫 2.11



花 9.2

アサギマダラの終齢幼虫 食草キジョラン(ガガイネ科)

ここにはアサギマダラの食草、キジョランが群生し、この蝶の繁殖地となっています。秋には吸蜜植物が少ないのでヒヨドリバナ、アズマヤマアザミ、フジバカマ等の花が増えれば、更に多くのアサギマダラが訪れると思います。大地沢がアサギマダラとの交流の場にできたらと夢を描いています。



オオムラサキ (タテハチョウ科)

光沢のある翅のエキゾチックなブルーが美しい。蝶愛好家にはあこがれの的。今後も絶えることなく命をつなげていってほしいと思います。

■オオムラサキ (タテハチョウ科)

本蝶は日本のタテハチョウ科の中で一番大きく、国蝶に指定されています。かつて保善会は保全のために多くのエノキを植えたと聞いています。昨年5月に幼虫、6月に蛹をエノキの葉裏に多数確認でき、その成果が窺えます。かつて市内の雑木林でも見られましたが、今ではすっかり姿を消しています。

生息地は主にヒノキ、スギの植林地が多く、周辺には樹液の出る樹が見当たらないため、将来に向けた何かしらの方策も必要になると思います。



5.28



4.25

オオムラサキ アカボシゴマダラ

エノキにはよく似た外来種のアカボシゴマダラの幼虫も多く見られます。現在、影響は見られませんが、生態も酷似しているため観察の継続が必要です。



22.9.26

ツマグロキチョウ (シロチョウ科)

この蝶は国・都の絶滅危惧種記載の市内で最も絶滅の危機にある蝶です。後翅裏の並行した黒条が特徴です。ぜひ守りたい生物です。

大戸の植物紹介

紹介植物は多々ありますが、今回は保善会の管理地内に自生する7種及び相原で有名なユクノキを選んでみました。他に、お地蔵さまから大地沢に向かう斜面には、アズマイチゲ、ヤマホタルブクロ、アカショウマ、ウバユリ、サラシナショウマや、深山の趣ある登山道には、ムラサキニガナ、ウリノキ、キジョラン、ウラジロ、そして山頂の「山之神」脇のムクロジなど、身近に目にすることのない植物が静かに登山者を迎えています。



カワラケツメイ (マメ科)

ツマグロキチョウの食草。幼虫は都絶滅危惧IB類記載のカワラケツメイのみを食草としています。自生地は厳しい環境下にあり、繁殖の試みも考えています。



10.9

セキヤノアキチョウジ (シノ科)

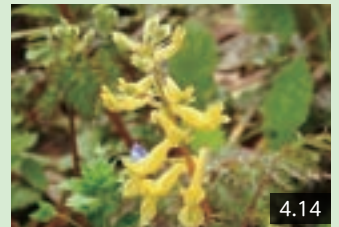
登山口の看板近くの沢筋に自生するシノ科の植物です。秋に咲くので気づく人は少ないと思いますが、清楚で淡いブルーの美しい花です。



9.26

ツリフネソウ (ツリフネソウ科)

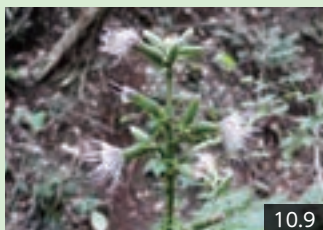
名は花が吊り下げられた帆かけ船に似ていることに由来。登山入り口の近くと丑田谷戸で見られます。ハウセンカと同じ仲間種に触るとはじけて飛びます。



4.14

ミヤマキケマン (ケシ科)

境川源流へ向かう山道や段切り谷戸で見られます。草戸山への近道は保善会労作の道。ベンチや階段、土留めなど登山者への配慮の感じられる道です。



10.9

アズマヤマアザミ (キク科)

秋遅くまで咲いている花。秋にはアサギマダラが吸蜜しているのをよく見かけます。高尾山にも自生し、花はやや上向きに咲き総苞は細くクモ毛があります。



5.6

ジャケツイバラ (マメ科)

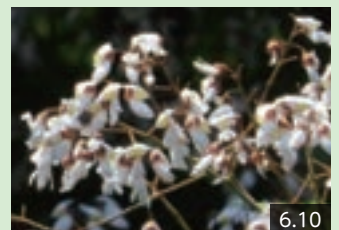
5月に黄色い一際目立つ花を咲かせるマメ科のつる性樹木。野外炊事場裏の沢筋に自生しています。花は房状で上向きで連なって咲くのが特徴です。



4.6

カントウミヤマカタバミ (カタバミ科)

高尾山でも見られる都の準絶滅危惧種です。身近に見られるカタバミより大きく葉の裏には軟毛がまばらにあるのが特徴です。登山道にひっそり自生しています。



6.10

ユクノキ (マメ科)

都の絶滅危惧IB類記載。ゆくのき学園の名の由来の樹木です。最近権現谷で同属の大きなフジキを発見。この樹も開花を楽しみにする樹となりました。